

# 新春特集



堺市長 永藤 英機

石本理事長をはじめ歴代役員並びに組合員の皆様の弛まぬご努力に敬意を表します。

堺市では、市政運営の大方針である「堺市基本計画2025」において重点戦略に「人や企業を惹きつける都市魅力」を掲げ、地域特性を踏まえた企業誘致の促進や新たな交通システムの導入に注力しています。美原区では堺都心部と美原を直通バスで結ぶ「SMI（堺・モビリティ・イノベーション）美原ライン」の実証実験を重ね、来年度以降の本格運行をめざして取組を進めています。

昨年開催された「大阪・関西万博」では、堺市としても万博会場での主催催事に加え、海外の国々や多彩なパビリオンとの連携等を通じ、類いまれな堺の歴史や文化、産業などの魅力を国内外に広く発信し、国際交流を進めました。万博という好機を最大限に活かした数々の挑戦は、堺の成長・発展につながる貴重なレガシーであると考えています。

貴組合には、今後も多くの企業・従業員の皆様が活躍される工場団地として地域産業の発展に寄与していただくことを期待しています。

そして、「歴史」のまち堺から「未来」を創る本市の挑戦に引き続きお力添えをいただけますと幸いです。

結びにあたり、大阪木材工場団地協同組合の益々のご盛栄と、本年が皆様にとりまして健康で幸多き一年となりますよう祈念申し上げまして、年頭のご挨拶といたします。

あけましておめでとうございます。  
大阪木材工場団地協同組合の皆様には、健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

貴組合は働く方の満足度や付加価値の高い工場団地の実現に向け、新入社員研修や集団健康診断、共同警備など様々な事業により組合員企業を支援され、地域経済の活性化にご貢献いただいています。また、昨年は生成AIセミナーの開催や「大阪・関西万博」に関連したモザンビーク共和国マニカ州による企業訪問の受入れなど、時宜を得た活動にも積極的に取り組まれています。



大阪木材工場団地協同組合  
理事長 石本 勝範

昨年を振り返りますと、4月13日から開催されました「大阪・関西万博」は、半年間で2500万人を超える入場者数を記録し、運営収支も370億円の黒字が見込まれるなど、事前予測を上回る成果を収め、10月13日をもって閉幕いたしました。関西経済に与えた波及効果も大きく、成功裏に終わったことは何よりであったと感じております。

また、10月の自民党総裁選においては、憲政史上初めて女性首相が誕生し、日本の政治に新たな歴史が刻まれました。新政権の発足後は株価が5万円台に到達するなど、経済面でも強い期待を感じさせる滑り出しとなり、政治・経済の両面で新しい時代の幕開けを感じさせる一年でもありました。「2025新語・流行語大賞」において、高市首相の「働いて働いて働いて働いて働いてまいます」が年間大賞を受賞し、世論の期待を象徴するものであると思っております。

さて、私共の協同組合では、長年の重要課題であった「調整池の公共移管」につきましては、1年以上にわたる再整備工事が無事に終了し、堺市への移管手続きも含めすべて完了致しました。この再整備工事により、池の調整能力は大きく改善され、今後は堺市行政による管理のもと、安全で安心な工場団地づくりへとつながっていくものと考えております。その他には、賃貸施設の管理に関して、新たなテナントによる開設準備が進められており、本年後半には実現できる見込みです。木材団地に新しい賑わいが生まれ、地域の発展に寄与できるものと期待しております。

結びにあたり、本年が皆様方にとりまして、実り多き1年となりますよう、ご祈念申し上げまして年頭のご挨拶とさせていただきます。

新年あけましておめでとうございます。  
令和8年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平素は大阪木材工場団地協同組合の事業運営に対しまして、ご支援ご協力を賜り、心より御礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、4月13日から開催されました「大阪・関西万博」は、半年間で2500万人を超える入場者数を記録し、運営収支も370億円の黒字が見込まれるなど、事前予測を上回る成果を収め、10月13日をもって閉幕いたしました。関西経済

# 年頭のご挨拶